

公益社団法人 日本滑空協会 平成26年度 総会議事録

1. 日時：平成26年6月15日（日）13：00～15：00
2. 場所：日比谷図書文化館 小ホール
3. 定款16条に基づき、総会に先立って開会時出席者20名で議長選出を行い、佐藤淳造15、甲賀大樹5の得票で議長は佐藤淳造会長に決定した。

4. 出席者

4.1 定足確認

総会開会に先立ち、議長の指名により、甲賀事務局より定足数確認で以下の報告があった。

現在の議決権総数601（団体5、個人596）、従って定足数（過半数）は301

総会実出席：21、注：議長選任直後に来場者1名。

総会欠席だが、議案直接裁決200（うち2名が丸山毅新任理事候補を否認）

総会欠席だが議長委任124、甲賀大樹、坂井正一郎、丸山毅への委任各2名、

佐藤淳造、鈴木康一、日口裕二、吉田茂、への委任各1名。

以上より実質出席者総数は335、従って定足301を満たし総会は成立。出席者過半数は168。

出席理事 会長：佐藤淳造、常務理事：甲賀大樹、坂井正一郎、吉田正克、理事：吉田茂、

新任理事：井上善雄、日口裕二、丸山毅

出席監事：谷口良知、山本隆章

出席会員：久田雅樹、齋藤岳志

篠原治男（NP0 関宿滑空場、中橋俊夫（中航連理事長）、吉田徹（静岡航空協会）、

佐志田伸夫（関西エアロスポートクラブ）、吉田正（日本グライダークラブ）、

三輪一弘（韭崎航空協会）、木村邦彦（韭崎航空協会）、久野浩樹（38SC）

欠席理事：常務理事 鈴木康一、三輪徳泰（退任） 理事：土屋宣幸（退任）、堀 宏明（退任）

4.2 開会

議事に先立ち、佐藤会長が議長を務め、開会を宣言。

定款22条2項に基づき議事録署名人は佐藤会長ならびに谷口、山本両監事が務める旨の発言。

5 議事

5.1 議案説明

5.1.1 第1号議案：平成25年度事業（報告）

議長指名で事務局長・甲賀常務理事より平成25年度事業報告の説明があった。

- ・安全飛行大会を9/16-17妻沼で計画したが、台風18号直撃で中止した。指定養成事業入所者が例年の前年6名から12名となった。
- ・航空安全講習会を5/25東京、7/28東京、8/3大阪、12/3東京で開催、200名参加。
- ・独立行政法人日本スポーツ振興センター、スポーツくじ助成金事業として滑空スポーツ講習会を

東京 (1/18)、仙台 (1/25)、大阪 (2/8)、名古屋 (2/15)、旭川 (3/1) で開催、100名強参加。

・Slingsby T-51 Dart をNPO 関宿滑空場に無償譲渡。展示する予定。

5.1.2 第2号議案：平成25年度決算（承認裁決）

議長指名で事務局長・甲賀常務理事より平成25年度決算案の説明があった。

- ・H24年度期首から、事務員（週3日勤務）と事務局長（週3日勤務）で分担して事務所を開くことで、人件費をセーブした。また安全飛行大会中止、指定養成修了者が多かったなどから、200万円程度の黒字となった。
- ・当協会の正味財産額はH20年度ごろ840万円あったが、H24年度には、過年度分一括減価償却もあり、400万円弱まで減少したのち、H24、H25年度の黒字で530万円まで取り戻した。事業実行にあたり、年間収支程度の正味財産を所有することが、効率良い運営のために必要なので、このような方針で運営を続けたい。

5.1.3 第3号議案：理事改選（候補者承認裁決）

定款18号3項に基づき、理事候補者9名を一人づつ総会出席会員に承認を確認。

5.1.4 第4号議案：平成26年度事業計画および予算（報告）

議長指名で事務局長・甲賀常務理事より平成26年度事業計画および予算の説明があった。

事業計画

- ・埼玉スカイスポーツフェスタ2014開催

グライダーだけで無く、ハング・パラグライダー、マイクログライダー、模型飛行機の団体と共催。

10月11-12日（土日）妻沼滑空場で展示、デモ飛行、体験搭乗を含む飛行イベントを実施。埼玉県の後援を得て、多くの参加者、マスコミに取り上げられると期待。

・滑空スポーツ講習会および航空安全講習会は全国滑空団体の要望を伺ってから実施するかを決定。

- ・2014年年末、滑空記章試験員、公式立会人の更新。

- ・第33回世界滑空選手権大会

① 6/22～7/6（ライスカヤ フインランド）市川展選手（Std. class）出場

② 7/21～8/10（レシノ ポーランド）丸山毅選手（18m Class）出場

・新理事マンパワーを加えて、滑空団体との連携、講習会、競技会、滑空スポーツ関係資料充実を期待。

予算

- ・予算規模は例年なみ1000万円程度、やや黒字の予算を組んでいる。
- ・収入：会費、事業収入以外では(独)日本スポーツ振興センターくじ助成金89万円
- ・支出：埼玉スカイスポーツフェスタ2014は別会計で実施予定。

5.2 質疑および意見

5.2.1 第1号議案：平成25年度事業報告

* 特になし

5.2.2 第2号議案：平成25年度決算

* 質問吉田正：租税公課の内容は何か。

返答甲賀：地方税である。

* 質問吉田正：委託費とは何か。

返答甲賀：当協会は機体等を所有していないので、外部委託で調達する場合に発生する費用。

5.2.3 第3号議案：理事改選

* 特になし

5.2.4 第4号議案：H26事業計画・予算

* 質問齋藤岳志：日本選手権開催について。

返答甲賀：開催できないのは応募者が少ないためである。

意見日口裕二：日本選手権はオーガナイザーが開催条件を整えれば実施できると考える。

説明坂井正一郎/吉田正克：当協会方針は開催を目標としている。

* 要望齋藤岳志：航空安全講習会を仙台で開催してほしい。

返答甲賀：各地滑空団体の要望を伺い、効率的に開催する。

返答佐藤会長：本件は当協会独力の事業で無いので、関連機関との調整を必要とする。

説明吉田徹（技量維持連絡会主催者）：航空安全講習会はやや低調化しているが、今後も継続する。第2種航空検査所有者者数2400名に対して、講習会受講者は1000名。今年も技量維持連絡会全体で年間20回程度開催を予定している。

* 質問佐志田伸夫：若年会員の動向について

返答甲賀：20代前半の会員は極めて少なく、新規入会した若年会員は1年後に会費を支払わず、退会となるケースが多い。当協会の性格上、直接的な Give & take の関係が見えず、会費に見合ったメリットが無いと考えているように思う。2000年ごろ、当協会の会費を滑空団体から個人に変更したため、統括団体と個人の間関係だけでは滑空界の活動を正常に実施出来ない。個人会員と当協会および滑空団体が役割分担して、滑空界全体を有効に活動できる体制を再構築し、メリットが見えるようにしたい。

意見篠原治夫/吉田茂：自分のクラブで当協会入会を勧める際に会員のメリットを見えるようにすることが重要と感じる。

意見吉田正克：（公財）日本学生航空連盟は若年パイロットで構成されている。朝日新聞社の重要事業であった関係で、他の滑空団体との関わりが無かった経緯があるが、朝日新聞社から離れ、他の滑空団体とともに滑空界発展に資する施策を展開するよう計画している。

説明吉田正：（公社）日本グライダークラブではラインボーイ制度で若年パイロットにメリットを与えている。最初は応募があったが、だんだん低調になっている。

* 当協会会員が団体会員から個人会員に変更した経緯

説明吉田正克：当協会会員構成を個人会員だけにする決議を行った総会で、日本学生航空連盟は加盟校部員すべてが当協会個人会員会費を支払うことは出来ないもので、総会席上で団体会員制度を新設していただいていたJCCによる競技会振興やクロスカントリソーアリング振興策はいずれも

この変更の理由となったJCCによる競技会振興やクロスカントリソーアリング振興策はいずれも途中で放置され、最近まで不良資産だけが残っていた。日本の滑空界全体を考えた場合、統括団体と現場を持つ滑空団体が役割分担して、航空界、行政当局、愛好者などに対応する体制を再構築する必要がある。

* 要望吉田正・世界滑空選手権出場選手は日本グライダークラブ会員のため、クラブ内で募金を行っている。当協会が統括団体として募金を推進して欲しい。

返答 坂井 当協会ホームページへ投稿いただければ滑空界に伝えることはできる。

返答甲賀 選手団がナショナルチームとして組織的に活動できる実績があれば、(独)日本スポーツ振興センター助成金の応募対象になり得る。ただし手続および実施事務が煩雑なので専任者が必要になる。

5.3 議決

5.3.1 第2号議案：平成25年度決算
全員賛成で承認

5.3.2 第3号議案：理事改選
全員賛成で承認

5.4 その他報告事項、決定事項
*特に無し

以上を以って全ての議事を終了し、15時に閉会した。

平成26年6月15日
公益社団法人 日本滑空協会

議長 会長

佐藤淳造



議事録署名人 監事

山本隆章



同 監事

谷口良知



議事録作成人

甲賀大樹

